

# 「ここからアプリ」を利用してみませんか！

## 1. 「ここからアプリ」とは？



「ここからアプリ」  
Webサイト

「ここからアプリ」は、中小企業基盤整備機構が運営するWebサイトです。生産性向上で困っている中小企業・小規模事業者のために、「使いやすい・導入しやすい」と思われる業務用アプリを随時募集し、機構が審査をした上で掲載・紹介しています。また、アプリの掲載に加え、IT導入事例やIT導入に役立つ施策情報等を提供しています。



<<https://ittools.smrj.go.jp/>より抜粋>

## 2. 「ここからアプリ」の使い方

### ① 業種別・目的別に最適なアプリを検索

「ここからアプリ」で紹介している業務用アプリは多岐にわたり、「業種別」や「目的別」に自社の業務に役立つアプリを探ることができます。「業種別」は、小売業、飲食業、製造業など8種類から、「目的別」では、「決済や請求をしたい」、「人の管理をしたい」、「分析や自動化がしたい」など9つの目的から、課題に応じた最適なアプリを検索することができます。

「アナログ作業から脱却できない」などのお悩みがあれば、本サイトを利用し、自社で活用できるアプリを探してみたいかがでしょうか。

業種別の  
検索項目

〈業種別〉で探す

- ・小売業
- ・飲食業
- ・宿泊業
- ・理容・美容業
- ・個人向けサービス
- ・建設業
- ・製造業
- ・その他

目的別の  
検索項目

〈目的別〉で探す

- ・お客様・取引先を増やしたい
- ・仕入や在庫の管理をしたい
- ・決済や請求をしたい
- ・経営やお金の把握をしたい
- ・人の管理をしたい
- ・情報共有をしたい
- ・業界に特化したアプリを探したい
- ・分析や自動化がしたい
- ・その他

APP **ここからアプリ**  
Coco APP

ここからチェック    アプリ検索    導引  
アプリ選択ガイド    支援者の方へ    お役立

**アプリを絞り込む**

注目のキーワード    会計    ホームページ作成    決済    例：小売業,QR決済

**業種** (1つ選んでください)

小売業    飲食業  
宿泊業    理容・美容業  
個人向けサービス    建設業  
製造業    その他

**カスタマイズについて**

自社でカスタマイズ可能なアプリや高度なアプリを含む検索結果を表示

**スマートSMEサポーターについて**

スマートSMEサポーターに登録された事業者のアプリのみ表示

**目的から探す** (複数選択可)

お客様・取引先を増やしたい (19)    ▼  
仕入や在庫の管理をしたい (9)    ▼  
決済や請求をしたい (13)    ▼  
経営やお金の把握をしたい (4)    ▼  
人の管理をしたい (5)    ▼  
情報共有をしたい (5)    ▼  
業界に特化したアプリを探したい (7)    ▼  
分析や自動化がしたい (2)    ▼  
その他 (4)    ▼

なお、アプリ検索は、Webサイトにある「アプリ検索」の画面から前述のとおり「業種別」、「目的別」に条件検索を行うか、「生産管理」、「勤怠管理」など「ワード検索」(上記写真)することで、「ここからアプリ」に登録されている最適なアプリを検索することもできます。

表示されたアプリの中から気になるアプリをクリックすると、初期導入コスト、ランニングコストなどの製品情報(右記写真)が表示されます。

**製品情報**

アプリケーション名	〇〇〇〇〇〇
事業者名	株式会社〇〇〇〇
初期導入コスト	〇〇〇〇円
ランニングコスト	〇〇〇〇円/年
無料試用期間	あり
導入実績数	〇〇〇〇事業所
外部連携対象アプリ	〇〇〇〇

## ② アプリの選び方

アプリの選び方は、自社の業務・業態に必要な機能があるか、初期費用・ランニングコストが適切か、困ったときに相談ができる窓口があるかといった観点で選ぶことが効果的です。

本サイトには、専門家から見た導入しやすい基準をクリアしているアプリが掲載されていますので、これを目安にして自社で導入することが適切と思われるアプリを探してください。

なお、クラウドサービスを選ぶ際には外部に自社のデータを預けることとなります。セキュリティ等に力を入れている事業者も多くなっていますが、その点についてはご注意ください。

### 《参考》ITツール活用の今

ITは品質やサービス力の付加価値向上、管理などの効率化によるコスト削減や、働き手の不足を補うために必要な役割を担っています。便利なものには、それ相応の費用がかかるイメージをお持ちかもしれませんが、一昔前までは大企業でしか使えなかった効率的なITツールが、**低コスト、無料、簡単なITツールの登場により、中小企業でも気軽に導入できるようになりました。**

「ここからアプリ」でご紹介しているITツールは、従業員規模も大きくなく、専門ノウハウをもつIT人材がいない、資金的な余裕があまりない、そういった企業でも取り組んでもらえるITツールを選定してご紹介しています。

### 3. 「ここからアプリ」のアプリ導入事例

「ここからアプリ」に掲載されているアプリ導入事例紹介の中から、今回は、2つの事例を抜粋してご紹介します。この他にも、様々な事例が掲載されており、「業種別」「目的別」「地域別」などに応じ検索することができます。一度ご覧になってみてはいかがでしょうか。

#### ① 小規模事業者こそ、少しのコストを惜しまずにITツールで効率化すべき

事業者名：手打蕎麦ごろう(東京都青梅市)

事業内容：飲食店(蕎麦屋)

##### 【課題】アナログなレジで、データも管理も全くできていなかった

- 以前のレジは、八百屋などで見かける“ザル”がレジ。
- データも取れず、管理していたとは言えない状況。POSレジアプリの「Airレジ」を導入したのが2018年の春。消費税が10%に上がる前にレジを一新したいという点と、キャッシュレスにしたい点から、新しいレジを探していた。

##### 【導入】反発のあった現場でも、使ってみたらその良さを理解してくれた

- 「Airレジ」にした理由はランニングコストがかからない点。導入コストも安価なため、初期投資が低く抑えることができた。会計と紐付けて確定申告を簡単にしたいという点も「Airレジ」にした理由のひとつ。
- 従業員はそれまで手計算で精算を行っていたため、「Airレジ」を使うことに難色。しかし、導入してみると「Airレジのほうがいい」となる。金額を計算しなくてお釣りが出せる、卓番ごとの金額も間違わずに出るため、なくてはならないものとなった。
- 「Airレジ」の後に、会計ソフト「マネーフォワードクラウド」を導入。導入の理由は、それまで使っていた会計ソフトが、「Airレジ」と紐付けができなかったため。

##### 【効果】「Airレジ」を中心に紐付けることで、あらゆる効率化が進んだ

- 確定申告や決算の作業が楽に。クレジットカードを登録、銀行預金はモバイルバンキングに登録しておけば自動的に仕分作業をやってもらえる。携帯電話のカメラでレシートを撮ると、仕分けしてくれて、最終的には全て紐付けされるので非常に便利。
- 以前は確定申告前の2月に、店を閉めた後に1週間程データ入力していた。30分かかっていたレジ締めは5分ほどで完了。データとして商品別、時間別の集計が可能となった。
- さらに、ポイントカードの情報と組み合わせることで、顧客別の来店回数、日付、食べたメニュー、全て把握できる。
- その情報を参考に、DM(ダイレクトメール)を効果的に出すことができるようになった。顧客の誕生日にDMを出すにも、2年以上来店がない人に送っても効果はあまり期待できない。以前は何百枚もハガキを送っていたが、効果の薄い人には送らずにすみ、無駄を省くことにつながっている。

##### 【展望】怖くても、やらないと始まらないのがITツールの効率化

- POSレジ、会計ソフト、QR決済、別々で紐付けられずに苦労しているという話を聞くが、むやみやたらにITツールに手を出しても全体の効率化は進まない。多少コストがかかったとしても、すべてが紐付けられて得られる効率化を狙うべき。
- 一方で、「クラウドはよく分からない」「ITツールは怖い」という話も耳にする。怖いからと言って使わないでいると、何もできない。
- 「Airレジ」の機能全てを使いこなせていない。今後は色々と勉強し、うまく他のITツールと紐付けをして効率化を図っていきたい。



## ② グループウェアの活用で過去最高益を達成

事業者名：トマト工業株式会社(岐阜県関市)

事業内容：製造業(パネル加工)

### 【課題】働き方改革により、労働時間を削減し、生産量を増やす必要が生じた

- 従業員の残業時間が長く、月間140時間を超える者もいた。2019年4月の働き方改革の施行により、それに従い月間残業時間の上限を45時間に設定。
- 従業員から「残業代も含めて生活費を工面していたから残業が減るのは困る」という声が挙がる。そこで、**残業代が減った分を賞与で還元する**、そのために生産性を向上させることを考慮。**働く時間を短縮させる一方で、生産量を増やし、利益を生み出していくにはどうすべきか策を講じた。**

### 【導入】タイムロス排除のためにコミュニケーションツールとグループウェアを導入

- 取り扱う商材は多岐にわたり、工場がいくつもの区分に分かれているため、告知事項を伝える際には、従業員に手渡す書類を準備し、工場内を行き来する必要があった。まずは、そういった**タイムロスの排除**から始めようと考え、第一段階としてチャットツールの「Skype」を導入した。
- 次に、**ファイルや書類のクラウド化を進める目的で、グループウェアの導入**を決定。複数のグループウェアを比較・検討した結果、カスタマイズ性が高く、導入費用が抑えられることから、「Zoho Connect」を選択した。
- 導入当初、従業員は戸惑ったと思うが、いち早く操作に慣れ、活用してもらうために、社内のやり取りはすべてグループウェア上で行うように徹底して呼びかけた。**朝礼会議の代わりにグループウェア上で毎朝「朝礼文」というかたちで社長の経営に対する思いを掲載**。その中でグループウェアの活用の重要性・有効性を紹介し、意識づけをしていった。

### 【効果】クラウド化で作業効率が大幅に向上、当初の目的を見事に達成

- 導入から約1年後、従業員全員がグループウェア上をメインに情報伝達をするようになった。告知事項のために資料を持って走り回る光景、工場で備品や工具を過剰に抱え込むことがなくなった。また、簡単にやり取りできるため、**これまで関わりがなかった別チームの従業員同士でアドバイスをし合うことも増えた。コミュニケーションの速度、頻度が上がったことを実感。**
- さらに、書類などもすべてグループウェア上にアップするようになり、作業効率が格段にアップ。メンテナンス作業を初めて任された従業員がいたとしても、**手元のタブレットでマニュアルを検索し、手順を確認しながら1人で完遂できる**。マニュアルは1人が作成したら、第三者が確認し、不足事項を追記してブラッシュアップするという構図が自然と生まれた。
- 「Zoho Connect」の独自アプリという機能を使用し、Webフォームを作成。その結果、以前は4つの工程を踏んでいた改善提案という作業が、今ではグループウェア上に打ち込んで完了できるようになり、大幅な時間短縮につながっている。
- グループウェア導入による効果は、数字にも如実に表れている。**月間残業時間が45時間を超える従業員はいなくなり、生産性は向上**。そのおかげで、前回の決算期はコロナ禍の厳しい中でも、**過去最高益を達成した。**

### 【展望】さらなる発展を目指し、ロボット開発に取り組む

- 生産性を高め、利益を上げ、従業員と地域に還元していくということが理想。そのため、今後もITを活用したい。最も力を入れていきたいのが、ロボットの開発。自社でプログラムを組んだロボットを製造工程に取り入れていきたい。
- ITを導入するにあたり、**最初は勇気が必要だったのが正直なところ**。しかし、**まずは一歩踏み出してみることが重要だった**と感じている。今後も従業員一丸となり、過去最高益を達成したい。